



臨床サンプルの遺伝子発現データ

創薬研究と疾患理解を支援

遺伝子単位・組織型別の解析が可能

F-ExpTissues

F-ExpTissuesとは

F-ExpTissuesは、**日本人症例を多く含む**臨床検体の遺伝子発現データを、独自開発のDNAマイクロアレイで取得したデータセットです。

遺伝子単位の発現データは、標的評価、正常組織との比較に基づく安全性評価、疾患特性の把握に活用できます。

データの特徴

- **日本人症例を含む** 10,520 例の臨床検体の遺伝子発現データ
- **約 14,000 遺伝子**の遺伝子発現データを収録
- **がん種横断**で比較可能
- 必要な遺伝子・症例数を**柔軟に選択可能**

活用例

- 標的妥当性・安全性評価（解析例①）
- 他疾患への適応可能性の検討（解析例①）
- 疾患内多様性の把握（解析例①）
- 組織型に特徴的な遺伝子の抽出（解析例②）
- 抽出遺伝子を用いたサンプル分類への活用（解析例②）

データの仕様

- マイクロアレイで取得した遺伝子発現データ
- 遺伝子 × 症例の行列形式
- CSV形式で提供、Excelで閲覧可能
- サンプル情報リストを付属

✉ 連絡先 🖨

一般財団法人 福島医大トランスレーショナルリサーチ機構



メールアドレス
tlo@ftrf.jp



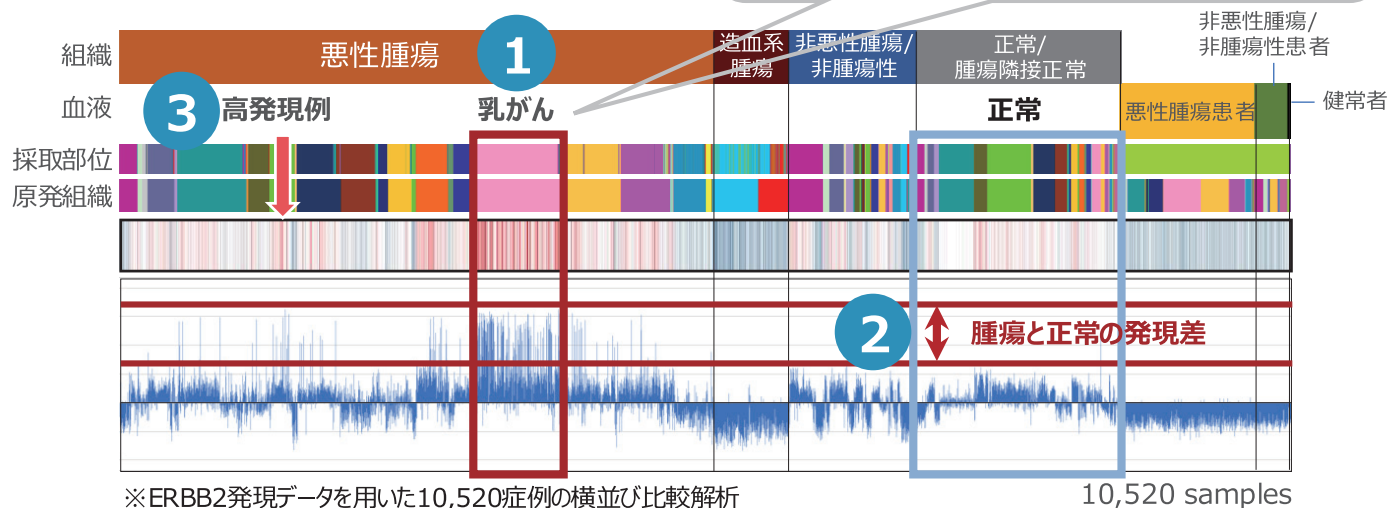
ウェブサイト
<https://ftrf.jp/>



解析例① 1遺伝子の発現データから読み取れる発現特性

1遺伝子の発現データから、以下のような発現特性を読み取ることができます。

- ① 組織特異的発現: 乳がんで高発現
- ② 正常組織との比較: 発現差が明確
- ③ 他がん種での発現分布: 高発現例を確認
- ④ 疾患内ヘテロ性: 乳がん症例内での発現ばらつき



【採取部位/原発組織の色分け】(抜粋)

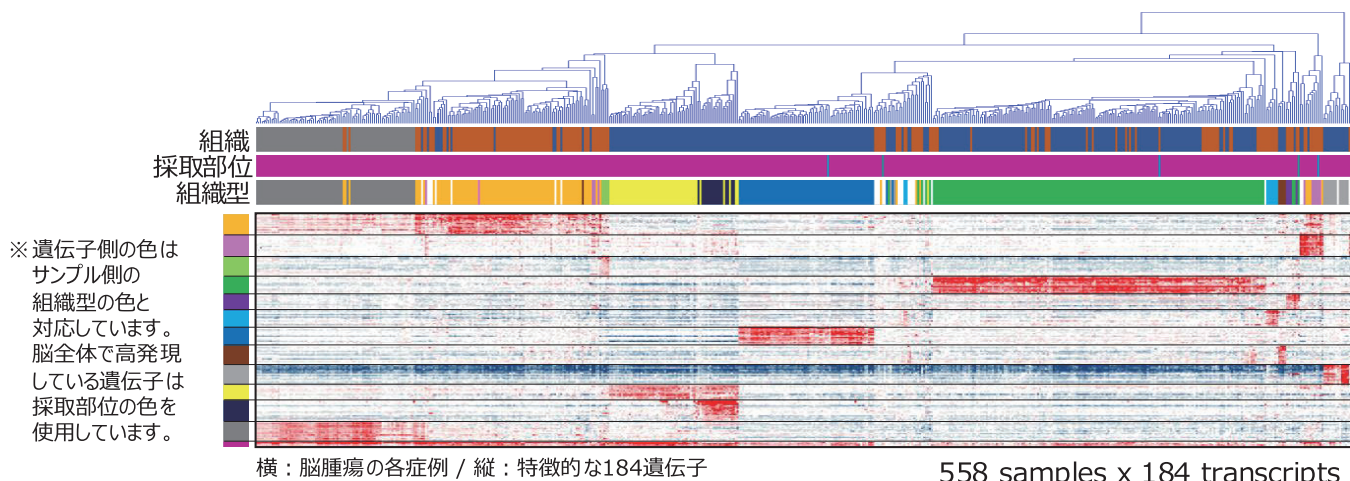
■ 肺 ■ 胃 ■ 大腸 ■ 肝臓 ■ 腎臓 ■ 腎盂/尿管/膀胱 ■ 乳房 ■ 子宮頸部/子宮体部/膣/外陰 ■ 卵巣/卵管

解析例② がん種別発現データを用いた組織型の特徴抽出と分類

がん種別の発現データを用いることで、組織型に特徴的な遺伝子を抽出できます。

その遺伝子セットを用いたクラスター解析により、サンプルを組織型ごとに分類することが可能です。

下図は脳腫瘍の例で、組織型に特徴的な184遺伝子を抽出し、クラスター解析を行った結果を示しています。同じ組織型のサンプルがまとまっており、組織型の特徴を視覚的に把握できます。



【組織】 ■ 悪性腫瘍 ■ 非悪性腫瘍/非腫瘍性 ■ 正常/腫瘍隣接正常

【採取部位】 ■ 脳、脊髄 ■ 肺、気管 ■ 骨軟部

【組織型】 ■ 神経膠腫 ■ 上皮腫 ■ 髄芽腫 ■ 髄膜腫 ■ 孤立性線維性腫瘍 ■ 脊索腫 ■ 神経鞘腫 ■ 血管芽腫 ■ 頭蓋咽頭腫 ■ 下垂体腺腫 ■ 成長ホルモン産生腺腫 ■ 正常 □ その他